【全分掌】令和８年度　府立城陽高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。	(1)授業において、生徒が知的好奇心や自己表現の基盤となる「語彙力」と、相手の言葉や文脈、その背景や全体の主旨等を理解する「読解力」を身につけさせるよう、全教職員で取り組んだ。すぐに成果の出るものではないが、「語彙力」「読解力」を身につけることによって、一つひとつの学習の意味や意図を読み取ろうとし、「わからない」「わからないからやらない」とすぐに諦めてしまう傾向から少しずつ脱却し始めた一年であったと考える。今後は、学習を「与えられるもの」「やらされるもの」ではなく、「知りたい」「おもしろい」という主体的な学びを通して「自分事化」できるよう、更なる取り組みが必要と考える。 (2)学校行事や部活動等においても、「語彙力」「読解力」を強化する機会と捉え、これまでの活動を改善し、学校生活を彩り豊かな生活の場となるよう、全教職員で取り組んだ。授業同様に成果の見えにくい課題である。「言われたことはやろうとするが、言われないことはやらない」「時間がかかることに気長く取り組むことができず、途中を端折って結論を急いでしまう」といった傾向がある中、たとえ失敗したとしても、新しいことに挑戦し、生徒が力を付ける機会を大切にしていきたい。 (3)学年部においては、クラス行事や文化祭、体育祭、学年レクリエーションを実施し、「自分たちで取り組む」機会を重視して、思い出深いクラスになるよう取り組んだ。クラスを基盤とした日常生活の中で、お互いの人権を尊重する風土を育てることができた。進路決定においては、「自分サイズの世界（見識）からの脱却」や、「今の自分を超える挑戦」を力強く後押しできる体制づくりが今後の課題である。 (4)教務部においては、生徒自身が学力の現在地を把握しやすくするように、考査成績表を新たに工夫した。また、学習習慣の定着に向け、生徒には自己課題設定を促し、教員には公開授業や教科内交流会の機会を確保するなどの取り組みをした。図書館教育においては、活字離れ、文献離れが進む中、貸出冊数は伸び悩んでいる。今後、各教科との連携が期待されるところである。 (5)生徒指導部においては、学校行事の在り方を見直し、部活動の活性化における後方支援をするなど、生徒指導提要の改定に沿った発達支持的な役割を重視している。生徒だけでは解決できない人間関係トラブルでは、生徒の変化を待ちながら教科担当、部活動顧問、学年等の教員と連携する体制を作り、時間をかけて生徒の成長を促してきた。人権の学びについては、特設の「人権学習」だけではなく、日常生活の中に落とし込む取り組みを進めている。いずれの分野も、生徒の主体性を伸ばす工夫が期待される。 (6)進路指導部においては、主体的な姿勢で進路実現に向かう生徒の育成を目指し、スタディラボ（学習室）の運営、放課後の進学補習（HOPE講座）などを抜本的に見直し、学ぶ意志を大切にしてきた。国公立大5名をはじめとする難関私学、4年制大学、専門学校、就職と幅の広い進路実現に対応できた。年内入試が拡大する中、面接、小論文、プレゼン等においては、生徒の経験の深さが問われてきており、日常の学校生活において豊かな経験のできる環境づくりが今後の課題となる。 (7)保健部においては、学校保健計画に基づく健康管理、健康教育を進めるとともに、登校に課題を抱える生徒や特別な配慮を要する生徒などを対象に、自立に向けた支援を進めてきた。また、スクールカウンセラーとの連携を効果的に進め、登校状況の悪化を防ぐことができた。校内美化に関しては、年度後半に全校を挙げた取り組みを実施できるに至ったが、今後は年間を通じた企画が課題となる。 (8)総務企画部においては、ホームページの発信内容を見直し、さらに鮮度のある新しい内容を盛り込んだ広報を工夫した。学校説明会では、定番の取り組みに加え在校生を多く登場させるなど、広報活動の見直しを進めた。ＰＴＡや同窓会と連携した取り組みも過度な負担を避けながら実施できた。次年度は、探究的な学びのコントロールセンター機能とＳＮＳ（Instagram）の発信が期待される。 (9)事務部においては、ＩＣＴ化を活用した生徒や保護者への案内・周知に取り組み、間違いのない各種事務手続きを進めることができた。また、本校を会場とする諸会議や選挙会場等の依頼に関して、教職員への周知やバッティングを避ける調整により、混乱なく対応できた。更に、限られた予算を有効活用し、修理・修繕を進めることができた。特に、LED電灯への切り替え、トイレの洋式化（一部）、教室の床研磨、美術室の空調設置、第三相談室のエアコン設置、湯沸かし室の温水器修繕等々による利活用の拡大は、教育環境・労働環境の改善に大きな貢献となる。 (10)管理職においては、全国の教育現場で教職員による不祥事が後を絶たない中、速やかな情報共有と、後手に回らない問題意識の共有を進めた。また、次世代を担う若手人材の積極的な登用を進めるとともに、新しい視点での取組を「形に落とし込む」ように助言した。プロジェクト会議においては、分掌部長や教科主任の枠を超えた視点で課題解決に向けた議論とし、出席委員の視座が高まった。	(1)　授業において、生徒が「（面白さを）知る」「（理屈が）分かる」「（学びを）使う」「（考えを）伝える」ことを通し、知的好奇心や自己表現の基盤となる語彙力と、相手の言葉や文脈、その背景や全体の主旨等を理解する読解力を身につけ、当事者意識を持てる学びとする。 (2)諸活動において、生徒が「（全体像を）知る」「（方法が）分かる」「（環境を）整える」「（機会を）活かす」ことで、これまでの活動を内省し、自分たちの意見で新しい取り組みに深め、失敗を恐れない創造力育成の場とする。 (3)クラスや学年での取り組みを通して、生徒の自己表現力や他者への共感力を高め、集団としての問題解決能力を体得させる。また、個々の生徒の実情に応じた自己実現と進路決定を支援する。（学年部） (4)生徒の学力保障に向け、学びを増やす授業改善（授業力向上）の創出と、学びを測る評価・評定の在り方を研究するとともに、図書館教育の充実を図る。また、今年度入学生からの教育課程を効果的に定着させる。（教務部） (5)多様な考え方を尊重し、自他ともに成長する場を確保する。生徒を守り、育て、鍛えるタイミングを見極め、スモールステップで成長を支えるとともに、対話と合意を形成する過程を重視する。（生徒指導部） (6)進路目標に応じた学力の獲得に留まらず、手の届く一歩先の挑戦に向かう進路指導を行う。また、あらゆる教育活動をキャリア教育に位置づけ、自らの人生を舵取りできる豊かな経験を応援する。（進路指導部） (7)自他の心身を守るとともに、環境美化活動に自ら取り組む習慣を身につける指導を行う。また、専門家の助言を仰ぎ、配慮を要する生徒が安心して生活し、進級・卒業できるような支援を保護者や関係機関とともに組織的に取り組む。（保健部） (8)教育活動の「見える化」を一層進め、各教科・各分掌の特徴的活動を中学生や地元に広報する。また、家庭や地域との連携、国際交流を進める。さらに、探究学習のコントロールセンター機能を担い、「社会に開かれた学校づくり」を進める。（総務企画部） (9)生徒、保護者が事務処理面での安心感をもって通学・生活できるよう連絡、助言、手続きに徹する。また、危険個所の早期改善や速やかな整備計画の実施により学校生活の安心感を担保する。（事務部） (10)コンプライアンス（法令順守）と、ガバナンス（適切な管理体制）の維持により、社会通念との整合性を図るとともに、次代を担う人材育成を進める。併せて、公所として、教育機関として信用失墜のない高い倫理感を育む。また、項目(1)～(9)に関する進捗を把握するとともに、校長諮問機関（プロジェクト会議）を活用し、本校の学校改革を進める。（管理職）

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和７年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
教務部	学力向上	学力向上	・学習に課題を持つ生徒が多数入学してくる本校の状況を踏まえ、各教科で基礎基本を重視した指導の充実を促進する。 ・基礎補充・基礎固め学習会・大学生教育ボランティアによる補充等を昨年に引き続き実施し、成績不振者への指導を継続する。				
		学習習慣の確立	・各教科、学年部と連携し、家庭学習強化週間など自主的な学習を促進する取り組みとして、定期考査における事前目標設定、事後の成果の振り返り資料を作成、配布をする。 ・スタディサプリ等の学習ツールの活用を促進し、教務部の取り組みの強化・充実を図る。				
	授業改善	充実した授業の確立	・教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。 ・ベル始業、授業はじめ・終わりのあいさつ、携帯電話の注意等引き続き全教職員で一致した指導を行う。 ・生徒の実態に応じた授業実践を通して、学習意欲を喚起し、主体的に学習する態度を育成する。				
		教科の指導力向上	・主体的に学び、行動する生徒の育成を目指し、学習に対するモチベーションの向上を目指す。 ・公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。 ・授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のＩＣＴ機器や、スタディサプリ、ロイロノート等の学習ツールのさらなる活用を促進し、全教職員のスキルアップを図る。				
		新指導要領への対応	・観点別評価について、生徒の実態に則して適切な評価となるよう各教科と連携し改善を進める。				
	図書館利用	読書内容の深化	・昨年度は入館者数は増えたが、貸出冊数の減少が見られた。また、活字主体の図書の利用が少なく、マンガ中心の利用が多い。そのことから今年度も教務部（図書担当）のみならず学年、教科の協力も得ながら活字主体の図書の利用増を目指して様々な活動を行う。年間の貸出冊数の50%を活字主体の図書の利用となることを目指す。（昨年度44%）				
		教科・分掌との連携	・「教職員向け図書館だより」の定期的な発行などで学校図書館の存在意義についての情報発信を行いながら、探究学習を始め、各教科･学年･分掌などと連携し、図書館利用を通じて生徒の基本的な情報検索・活用能力を養う。環境整備面ではコピー機の導入を考える。				
		図書委員会活動の活性化	・生徒の意見を取り入れながら読書週間などのイベントを通じて生徒の活躍の場を増やし、図書委員会のさらなる活性化を図る。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価 中間	評価 期末	評価 総合	令和７年10月時点での成果と課題
生徒指導部	基本的 生活習慣	生徒が学校に軸足を置いた生活が送れるように、さまざまな指導を全教職員で連携して行う。	・基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上のため、遅刻、制服の正しい着こなし、身だしなみを整えることに重点を置いた指導を行う。また、指導が必要な場合は丁寧に話をして、対話と合意を形成する過程を重視することで多様な考え方を持った生徒にも寄り添った指導を行う。				
			・登下校でのマナー（電車マナー含む）を周知徹底するとともに、事故の数（特に自転車事故）を少なくできるよう城陽警察や地域ボランティアの協力のもと、注意喚起を継続的に行う。				
			・授業開始時の規律を確保するとともに、タブレットや携帯電話等についてのルールを定期的に確認し、これに関わる指導を減少させる。				
	特別活動	部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化する。	・全部活動で挨拶、礼儀、清掃活動等を行うことで活性化を図る。また、学校行事において部活動員が積極的に参加することにより、学校運営の柱となれるようにする。				
			・１年生部活動一斉加入では、未活動者がでないように各部活動で継続的な指導を行い、生徒が活動できる場を提供する。未活動者については学期ごとに活動状況を把握し、指導を行う。また、２・３年生についても３年間継続できるような指導を行う。				
			・生徒会活動を中心にして、各委員会やボランティア活動を活性化し、生徒が主体的に活動できるような環境をつくりサポートする。また、各行事においては新しい取り組みを少しずつ取り入れることを検討する。				
	いじめの防止	いじめの定義について全教職員で把握し、いじめに対して早期に対応できるようにする。	・職員会議等でいじめの定義について周知し、生徒についての情報共有や教員間の連携を行うことで早期に対応できるようにする。				
			・いじめ対策委員会を開くことで、情報の共有を密にし、組織でいじめに対して対応できるようにする。				
	人権教育	学年や分掌・教科と連携しながら､さまざまな人権問題について学習を深め、人権尊重の実践的態度を育む。	・３年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。				
			・「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての教職員にフィードバックする。				
進路指導部	キャリア教育の推進および希望進路の実現	生徒の希望進路の実現に向けた意欲と学力を向上させるとともに、社会性の獲得を支援し、可能性を開花させる取組を展開する。	・キャリア教育実施計画に基づき、多様な背景を持った人材・外部の教育資源の活用を柱とした「ＴＡＧ城陽」の取組を推進し、生徒のコミュニケーション能力の向上や、集団や社会の一員としての見方、考え方の獲得を目指す。また、自分自身で進路を切り拓く能力や態度を養う。				
			・就職補講や進学補講、業者模試等を適切に実施することで、継続的、主体的に学習に取り組む生徒集団を形成するとともに、生徒が粘り強く希望進路の実現を目指せる環境を整備する。				
			・「進路のしおり」の充実を図り、各種説明会を実施することで最新の進路情報を適切に提供するとともに、学年部と連携し生徒とのカウンセリングの機能を高める。また、「スタディサプリ」等のＩＣＴ機器やソフトウェアを活用した進路指導を推進する。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価 中間	評価 期末	評価 総合	令和７年10月時点での成果と課題
保健部	健康管理の充実	生徒の健康状態を把握し、疾病の早期発見・早期対応を図る	・健康診断や健康相談を計画的に行い、結果の迅速な通知と受診勧告を徹底し、生徒の健康状態の把握と指導に努める。 ・行事前（特に研修旅行、ロードレース大会）には個別相談を実施し学校医の助言を活用しながら生徒が行事に安心・安全に参加できるようにする。				
	心の健康への支援	生徒の心の健康状態を把握し、早期支援と相談体制の充実を図る	・気になる生徒や配慮を要する生徒にはスクールカウンセラーや関係教諭、保護者と連携し、情報共有を適切に行い、生徒の心身の健康と安全を支える体制をつくる。 ・教育相談会議を定期的に行い、進級や卒業に向けて個々の生徒に応じた支援や配慮を検討する。				
	環境美化活動の推進	学校環境を大切にし、主体的に環境美化活動に取り組む	・教職員の協力のもと日常の掃除活動を丁寧に行うことを定着させ、美化意識を高める。 ・環境美化週間（仮称）やCan doリスト（仮称）を活用し、将来を見据えた基本的生活習慣を育成する。				
総務企画部	外部評価	学校評価アンケートの回答数確保及び年度比較による取組の検証	「学校評価アンケート」について、昨年度以上の回収率の増加を目指す。 「回答結果の年度毎の推移」を、今後の本校のあるべき方向性を検討するための材料に資するよう努める。				
	家庭･地域社会との連携	保護者等へのＰＴＡの諸活動の「見える化」と、より本校教育活動に資する支援事業の企画立案・運営	より効率的なＰＴＡ諸活動の運営に努めるとともに、本校ホームページやスタディサプリ等のツールを活用し、本校保護者等へのＰＴＡ諸活動の様子を積極的に発信することに努める。				
	広報	本校教育活動の「見える化」の推進及び特徴的活動の積極的な広報	令和８年度「学校経営の重点」としての「読解力・語彙力」の強化を昨年度から引き続き推進する本校の姿を広くアピールしていくことを目指す。				
			広報活動全般において、「生徒の主体的な活動」を中心にした展開に努める。				
			本校教育の「いま」を公式HP運営や公式Instagramからこまめに発信することで、より即時性のある本校の教育活動の「見える化」を実現する。				
	国際理解教育	国際理解教育講座の円滑な企画運営及び国際交流の推進	本校生徒に府教育委員会「府立高校生海外留学支援事業」をはじめとする留学支援事業への参加を喚起し、本校生徒の海外留学への意欲を促進する。 また、今年度はNP:Jプログラムの受入において生徒と留学生との積極的な国際交流を進める。				
			年間ＬＨＲ計画の中に国際理解教育講座を位置づけ、より生徒が興味関心を持って学習することが出来る内容を企画する。				
	総合的な探究の活動	生徒の探究能力の育成と来年度の指導案の作成	総合的な探究の時間（城陽Nexus）を通して「答えのない問い」に挑戦する資質を育成するとともに、来年度に今年培った力を発揮できる活動を提供できる指導計画を作成する。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和７年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
第1学年部	学習指導 進路指導	学習習慣の定着と継続	・教務部や各教科と連携して学習に関わる情報を定期的に発信し、学習の意義を理解させ、早期に学習習慣を定着させる。日々の学習や考査の振り返りを通じて、学習習慣を継続させるための働きかけを粘り強く続ける。				
		個々の実情に応じた進路選択への支援	・進路指導部と連携し、生徒が自身の実情に応じた２年次以降のコース・科目登録の選択ができるように日常からの進路指導を充実させる。				
	生徒指導	規範意識と主体性の向上	・生徒指導部と連携し、規則を守ることの意義、意味を理解させ、主体的に物事に向き合う力を高める。担任団で規準と基準を一定合わせ、根気強く生徒と向き合い続ける。部活動についても、３年間継続する指導を行う。				
	特別活動	学校行事、部活動を通しての人間形成	・部活動や学校行事を通して、生徒の自己表現や他者への共感の場を保障し、生徒一人一人に居場所がある学級・学年であり続ける。また、保健部と連携し、日常の清掃を徹底し、学校への帰属意識を高める。				
第2学年部	学習指導 進路指導	進路目標を明確化し、将来を見通して学力を高めようとする意欲を育む	進路資料の読みこみやオープンキャンパス参加を課題化し、面談やHR活動を通して個々の進路目標を深めて明確化することで、将来を見据えた学習意欲を高める。				
		基礎的・基本的な学力の定着と発展的学習に向かう主体性ある姿勢を育てる	教科担当と連携し基礎的内容の確実な習得を図りつつ、学習習慣がゆるみやすい時期を見据えて進路目標など将来を見通し、自ら課題を見つけ主体的に取り組む学習活動を継続的に促す。				
	生徒指導	規範意識の向上	生徒指導部と連携し、日常的かつ継続的にルール遵守の指導と振り返りを行う。				
	特別活動	学校行事等を通して自己肯定感や達成感を感じられるよう指導する	日常のＨＲ活動を通して自己表現力や他者への共感力を高める。さらに研修旅行や学校祭などの行事を通して交流の輪を広げ、生徒が自己肯定感と達成感を得られる体験を積み重ねることで、人間的成長を促す。				
第3学年部	進路指導 学習指導	進路実現を叶えるための基礎学力及び発展的な学力を身に付けさせる。	教科担当者との連携を密に行い、日々の学習に積極的に取り組ませる。				
			生徒とのコミュニケーションを密に行い、一人一人の個性や意志を尊重し、生徒に合った進路決定ができるように導く。				
	生徒指導	これまでに培った規範意識に基づき、自ら考えて行動し、律する力を身に付けさせる。	ルールを守ることの意味を日々の活動や細かい声掛けの中で理解させ、同じことを繰り返させない指導を行う。				
	特別活動	学校行事、部活動を通じて、向上心や自己肯定感を身に付けさせる。	生徒一人一人が様々な学校生活に対して常に向上心を持ち、自己肯定感を育むことのできる、適度な目標を設定しながら、生徒の活動を支えていく。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和７年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
事務部	渉外	学校と住民・来校者等をつなぐための、迅速で適切な窓口対応、電話対応を行う。	学校行事、校時、教職員の動向の把握に努め、事務室内で情報共有する。				
			来校者の目的・用務先等を正確かつ丁寧に把握し、来校者が円滑に目的を果たせるよう努める。				
	就学援助	生徒と保護者が安心して教育を受けることができるための経済的支援体制の充実に貢献する。	就学支援金や奨学金などの各種援護制度について、生徒と保護者へ周知が図れるようスタディサプリやホームページの活用をより進める。				
			生徒に不利益が生じないように、状況に応じて学級担任や他分掌との連携を密にする。				
	施設設備	安心安全な学校の環境整備に向けて最善を尽くす。	校内の施設・設備の適切な維持管理に向け、情報収集に努めるとともに、部内での情報共有と状況改善のための迅速な対応に努め、生徒や保護者に向けた報告等を心掛ける。				
	予算執行	学校の特色化の推進及び活性化を図るための効果的な予算執行に努める。	教職員間の円滑なコミュニケーションに努めることでいち早いニーズや優先度等を的確に把握し、計画的に執行する。				

評価　４：達成できている　　３：ほぼ達成できている　　２：あまり達成できていない　　１：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評　価			令和８年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
国語科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。また、生徒が理解しやすく、意欲が高まる授業を展開する。	・生徒が学習しやすい学習環境づくりとして、引き続き授業開始と終了時の挨拶（起立・礼）をしっかりと行う。加えて、机上やその周辺の環境を整えさせ（不必要なものを置かない、携帯は鞄の中の目につかないところにしまう等）、メリハリのある授業を行う。 ・ICT機器を活用に関しては必要な時だけ机上に出させるなど、効果的かつ不正利用等をさせない利用方法を考えていく。				
	国語の学力を向上させ、生徒の希望進路実現に努める。	・二分化する生徒層への対応として、補習のほか、スタディサプリ等を利用して教員の負担を軽減できる形で、中学範囲の学びなおしや高校基礎の復習をすすめていく。 ・コース問わず年々大学進学希望者が増加していく現状に対応するため、引き続き小論文対策の副教材を用いて、書く力をつけさせるための授業を行う。 ・より個別の対応として、大学進学希望者には進学補講やHOPE講座、小論文指導等を進路指導部と連携しながら実施する。				
地歴公民	日本の諸問題だけではなく、世界の諸問題に対する思考力の向上をはかる。地図やグラフなどの資料から、時代や地域の特色を読み取る力を養う。主権者であるという自覚を促し、政治的教養の育成をはかる。	歴史では日本史と世界史を関連させ、図表等を効果的に活用し、世界における日本文化の特質を理解できるようにする。また、多面的・多角的な視点から世界の諸問題について考える力を養う。 地理では地図帳・資料集を活用し、生徒の問題意識を視覚的側面からも刺激する。 公民では時事問題と授業を関連させ、最新のデータ等を効果的に活用して生徒の知的好奇心を喚起させるとともに、主権者としての自覚をもたせる。 ＩＣＴの効果的な活用方法を模索し、生徒のさらなる意欲・関心の向上に取り組む。				

評価　４：達成できている　　３：ほぼ達成できている　　２：あまり達成できていない　　１：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和８年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
数学科	学習意欲を喚起し，確かな学力の定着を目指す。	私語のない，授業規律の確保に努める。				
		学習習慣をつけさせるため、（週末）課題を与える。また、基礎力の定着を図るため小テストを行う。				
		ICT機器の活用やグループワークなどで，生徒の学習意欲や理解力の向上を目指し授業改善を模索していく。				
		個に応じた指導を行い，様々な学力層の生徒に対応した指導を行う。				
理科	確かな学力の定着	各単元の到達目標を明確にして生徒に示し、単元の導入・まとめだけでなく小テストなど、日常的な学習確認の手段を意図的に組み込む。				
		観察・実験などを通じて習得した理科の知識が、身近な自然現象や社会課題など日常に結びついていることに気づかせる。それにより生徒が学びたいと思うような授業を実践する。				
	主体的・協働的な学びの推進	理科の内容を通して、自分の考えや気づきを相手に伝える語彙力、表現力を育てる授業を実践し、対話などによる学び合いの機会を設ける。				
		デジタルコンテンツを中心とした視聴覚教材や実物等も用いて、生徒の興味関心をひきつける。				
		生徒がタブレットを効果的に活用し、他者とともに考えながら学べる機会を計画的に設ける。				
	不断の授業改善	教科内で、公開授業期間以外でも授業を見学するなど交流を大切にし、互いの良いところを取り入れるなど、授業改善に努める。				
		教科研修を実施し、専門科目以外の研鑽も積極的に行う。				
		日々の授業における評価材料を増やせるよう工夫する。その結果を分析し、授業改善に努める。				

評価　４：達成できている　　３：ほぼ達成できている　　２：あまり達成できていない　　１：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評　価			令和８年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
保健体育科	個人･集団の規範意識の向上	・学習環境の維持･向上 （挨拶の徹底、服装･身だしなみの指導、荷物の整理整頓）				
		・帰属意識を高め、自身と自校に誇りがもてる指導				
		･体育授業後の授業遅刻に対する指導				
	主体性や自主性を育み、体力、語彙力･読解力を強化する授業	・ICTのより効果的な活用から生徒の主体的･自主的な学びを促進する指導				
		・インプット(知る･分かる)とアウトプット(使う･伝える)に協働的に取り組むことができる指導				
		・一斉･個別指導の使い分けと適切な水準の課題設定により、スモールステップで達成感･充実感を味わうことができる学習保障				
	授業の準備･事後処理	・施設･用具点検、安全確認				
		・指導と評価の一体化の推進				
芸術科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。	・授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶、授業準備と片付けをしっかりと行い、学習に向かいやすい環境作りに努める。				
	生徒が理解しやすく、興味関心を持てるような授業を展開する。	・ICT機器や各種資料を効果的に活用することで生徒の興味関心を喚起させ、分かりやすい授業展開を目指す。				

評価　４：達成できている　　３：ほぼ達成できている　　２：あまり達成できていない　　１：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価 中間	評価 期末	評価 総合	令和８年10月時点での成果と課題
英語科	・「確かな学力」を身に付け、多様な進路選択に対応できるよう、授業等の創意工夫に努める。 ・ICT活用、多様な言語活動、多面的な評価の充実により、生徒達の英語学習へのモチベーションと英語力の向上を目指す。 ・英語に苦手意識を持って入学してくる生徒が多い中、生徒達が授業を通して達成感や自己有用感、自らの成長を感じられる機会を増やす。	・家庭学習を定着させるため、各学年とも定期的に(週１～２回以上)単語テストなどの小テストを実施し、週末課題を課すなど計画的に取り組む。				
		・個人・ペア・グループでの言語活動(音読、対話練習等)の機会や各レッスンのテーマについて考える機会を増やすことで、英語でコミュニケーションを取ろうとする態度を養うとともに、主体的に学ぶ態度を養う。 ・またパフォーマンス課題（音読テスト、レシテーションコンテスト等）を課し、英語で話すこと、人前で発表すること、自己表現の楽しさを実感させる。AETを積極的に活用して４技能５領域の向上を目指す。				
		・進路実現のためのスキルアップ、英語力向上の手段として検定試験受験を奨励する。即興性のあるスピーキング力や自らの意見を論理的に伝えるためのライティング力の向上を軸とした検定試験対策を授業に取り入れ、サポート体制を強化する。 ・HOPE講座や進学補講等、スタディサプリを活用し入試対応力を育成することで生徒の進路実現を支える。				
		・BYODによるiPad導入に伴い、教科内で効果的なICT活用法について活発な情報共有を行い、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びの推進に努める。				
	・英語をコミュニケーションの手段として使う経験を通して、英語を使う楽しさを実感し、将来海外の人と積極的に関わろうとする生徒を一人でも多く育てる。	・授業内での英語での発表活動、イングリッシュチャットなど、生徒達が英語に対する興味関心を深められるような活動を企画、実行する。また、総務企画部と連携し、校内外にその様子を報告する。				

評価　４：達成できている　　３：ほぼ達成できている　　２：あまり達成できていない　　１：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和８年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
家庭科	・主体的に考え、実践できる学びをすすめ、生活を自分事として創造する姿勢を育む	・身近なことを授業で取り入れ、活動を増やすことで興味をもち、取り組むことができるようにする。				
		・３年生フードデザインにおいて食育の内容を向上させるための指導方法を工夫することで、挑戦する意欲や表現力を育成する。				
	・新観点別評価への対応	・第Ⅲ観点の評価方法を増やすことで、生徒の主体性をより適切に評価する。				
		・３年生フードデザインおよび保育基礎において、第Ⅰ観点を評価する場面を設定することで、評価のバランスを整理する。				
商業科・情報科	「わかる授業」の実践を行い、個々の生徒に応じた学力の伸長を目指す	基礎基本を徹底し、定期考査の平均６０点を目標に、個に応じたきめ細かな指導を実践する。				
		個に応じた「確かな学力」を身に付けさせるため、わかる授業を意識した授業を行い、学年末の成績による不振者０を目指すとともに、各種資格取得を目指す生徒の希望を実現できる学力を身につけさせる。				